

学校教育目標
重点目標「つながろう やりぬこう」
「すすんで やる子」

地域の教育力で子どもたちが育っています

校長 望月 秀一

厳しい残暑が続いています。玄関に飾られている渡邊富士夫さん(神戸1)からいただいた、千日草とヤリケイトウの花が心を和ませてくれています。子どもたちの元気な声が学校に返ってきました。どの子の顔にも充実した夏休みを過ごせた満足感が見られました。34日間の夏休み期間中、大きな事故やけがもなく過ごせることができました。保護者や地域の皆様に感謝申し上げます。

7月21日は、「雨乞い曼陀羅祭典(お曼陀羅さん)」があり、多くの子どもたちが参加させていただきました。雨乞い芸能保存会に所属している子どもたちは、日頃の練習の成果を発揮して、念仏太鼓等を使って表現していました。演奏を聴いて、当時の農民の心情を表す音色が響いてきて感動しました。この伝統を絶やさずに受け継いでほしいと願うばかりです。また、今年度は、2年生が生活科の授業で神戸地区のお祭りについて学習しました。「お曼陀羅さん」、「地区の夏祭り」、「今宮の火祭り」について、杉山清春さん(神戸2)、川口悦治さん(今宮)をゲストティーチャーに招いて学習をすすめてきました。お二人から、お祭りの由来や地域の人たちの願い等を聞き、子どもたちは祭りに行ってみたいとの思いを一層膨らませました。そのこともあり、今年は大勢の子どもたちがお曼陀羅さんを楽しみにしていました。日蓮上人が書かれた曼陀羅のご開帳では、子どもたちは興味深く見ていて、地域の宝物を目にして興奮した様子でした。地域の方からも、学校で学習したことでたくさんの子供たちが関心をもって来て嬉しいという声をいただきました。今後も、神戸地区の「ひと・もの・こと」にふれながら学習をすすめ地域を愛する心を育てていきたいと思います。



今宮の火祭りは、13日のお盆に行われました。今宮に住む子どもたちが太鼓を叩き、お祭りを盛り上げていました。その指導には、地域の方々が熱心に関わっていたようで、当日の練習の際に、指導している方の叱咤激励の音が響き、練習にも熱が入っていました。教える側、教わる側も真剣で、立派な火祭りにしていきたいとの思いが見ている私にも伝わってきました。そんな姿を見ていて、地域の教育力のすばらしさに胸が熱くなりました。練習過程の中で、地域のために頑張る子どもたちを家族が励まし、支える地域があつてからこそ、最後まで

やりぬくことができ、今も受け継がれているのだと感じました。生活経験の少ない子どもたちは、戸惑ったり、つまずいたりすることが多々あると思いますが、それを温かなまなざしで見守り、教導く大人がいることで健やかに成長していけるのだと思います。

地区の夏祭りは台風の影響で中止になり、子ども同士知恵を出し合い作った神輿や、PTAの模擬店等も見れず残念でした。二つのお祭りを通して、「神戸地区を担っていく子どもたちを大切に育てていきたい。」そんな保護者・地域の皆様の熱い思いが伝わったすばらしいお祭りであったと感動しました。今後も、「地域とともにある学校」を目指して参ります。ご理解とご協力をお願いいたします。